

協 議 会 議 事 録	
会議名	平成 22 年度 第 1 回江田島市公共交通協議会
日 時	平成 22 年 5 月 27 日 (木) 14 : 30 ~
出席者	別紙出席者名簿
1 開 会	
事務局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会 長	あいさつ
3 委員の紹介 (自己紹介)	
委 員	自己紹介
4 議長の選任について	
事務局	野原委員を議長に選任
5 報 告	
(1) 協議会規約の一部改正について	
事務局	<p>－資料 1 により説明－</p> <p>3 月 25 日の第 7 回協議会において市議会議員の方をメンバーにということでした承していただいた件について、5 月 10 日付けで協議会の規約を一部改正する。</p>
議 長	<p>一部改正ということによろしいと思うが、いかがか。</p> <p>それでは協議会規約の一部改正ということで、よろしく願いたい。議員は住民の代表なので、是非積極的な発言を今後願いたい。</p>
(2) 秋月～呉中央航路の現状について	
事務局	<p>－資料 2 により説明－</p> <p>先月 4 月半ば頃、大昭汽船から市の方へ、6 月で廃止したいと申し出があった。今回の件に関して、協議会の事業としてやるには時間的に厳しいということで、市独自の事業として考えた。</p>
議 長	何か確認事項、質問事項があれば伺う。
委 員	<p>社会実験運航後の航路存続、あるいはデマンドに切り替わる、それを協議するということになれば、平成 22 年度の当協議会の計画書の中に載せていかないと協議はできない。どうするのかを急ぐのであれば、今日協議したほうがいいのか。</p>
議 長	協議するということではあるが、計画書の中に取り入れた方が良くはないかという指摘だが、いかがか。

第 1 回江田島市公共交通協議会 (H22.5.27)

事務局	<p>社会実験運航終了後の再編、デマンドの導入、これを協議会事業とすべきかどうかということだが、事務局としては、議論の方向に関しては協議会の中でやってもらって、今年度内の予算的なものは市の予算で考えている代替運航確保補助金という形での対応を考えている。</p> <p>今の思いでは 4 月以降の正式なデマンド導入ということに関して、協議会の計画事業としてお願い出来ればというのが事務局の案である。</p>
議長	<p>事務局の方で、計画には入っていないということだが、もし本当に必要であるということならば意見を出してもらいたい。</p>
6 協 議	
(1) 平成 21 年度歳入歳出決算について	
事務局	<p>－資料 3-1 により説明－</p>
議長	<p>続いて監査委員、よろしくお願ひしたい。</p>
監査委員	<p>－資料 3-2 により報告－</p>
議長	<p>それではただいまの監査報告について、意見はないか。 協議事項(1)は承認されたということでした承りいただきたい。</p>
(2) 平成 22 年度予算について	
事務局	<p>－資料 4 により説明－</p>
議長	<p>これについて質問はないか。 それでは今年度はこの予算の枠組みで実行させてもらう。</p>
(3) 平成 22 年度事業計画について	
事務局	<p>－資料 5 により説明－</p> <p>クリアラインの影響調査について、県の第 2 音戸大橋の影響調査を前倒しで、クリアライン無料化の前に実施してもらえる。航路への OD 調査（出発地・目的地別交通量調査）なども含めて交通量の調査を、県の予算でもらえるため、もしかしたらこれに係る協議会の予算は必要なくなるかもしれない。ただ、クリアライン無料化前はしてもらえるが、無料化後は未定であり、うちでやるべきものがあれば協議会事業でやっていきたい。</p> <p>事業費はあくまで概算であり、補助金について正式な国の回答がないため、場合によっては中身を削らなければならない可能性があり、そのときには報告させてもらう。</p>
議長	<p>これについて意見はあるか。</p>
委員	<p>事業費がついたものだけを事業計画として挙げているが、お金がつかなくても検討していくというものについても、一緒に書いてくれるとわかりやすい。先ほどの東側航路のこととか、お金はついていないが</p>

第 1 回江田島市公共交通協議会 (H22.5.27)

	今年度検討して来年度の事業費を要求するといった内容についても、一緒に計画に出してもらいたい。
事務局	本日の資料はお金をつけているものしか挙げていなかった。計画に位置づける事業として 3 年間行うが、東側航路の問題の議論、西能美航路についての引き続きの議論、バスの系統整理についても調査検討は今年度議論に入っていきたい。次の協議会からになるが、分科会の議論を踏まえて、改めてこちらで議論していただきたい。
議長	この事業計画はたまたま事業費のついたものを載せているが、事業費のついていないもの、あるいは事業費をつけなければならないものもあるかと思うが、東航路・西航路・バス利用状況調査など、必要であれば載せていただきたい。 細かい内容については次回協議会で事務局から出してもらおうということで理解してもらいたい。
委員	観光ルート開発について、事務局の説明では県の事業とタイアップして 7 月土日祝に行うということだが、今日は 5 月 27 日、宣伝等を含めてあと 1 か月しかない。今検討しているのでは遅いのではないか。
事務局	県の事業に乗っかる形のほうが効果的と思い、日程はこれに当てた。県の業者を決める段取りがようやく決まったところであり、これから調整を図るということで、術科学校に来てもらうということまでしか決まっていない。その先については今の案では貸切バスを運行するというので、市の他の観光場所、例えばシーサイド温泉や砲台山など、バスに乗って行ってもらうことを考えている。具体的に何時の便というのがはっきりしていないので、案として示せなかった。早急に調整したい。
委員	県事業の、宮島と江田島を結ぶ船便は、高速艇になるだろうが、江田島町の小用港に到着するという認識で良いか。
事務局	これについては、市から術科学校に校内の第 3 栈橋が使えないか話をしてほしいと、県からの要請があった。術科学校からは、県の事業に協力するというスタンスで、全部は無理だが、何回かは第 3 栈橋を使える時を考えるというところまで回答をもらった。例えば 10 回のうちの 3 回は術科学校の第 3 栈橋に止まり、その他は小用港に止まるという、変則的な形で調整している。
議長	これからも更なる具体的な詰めが出てくるだろうが、宮島と結んだ新しい航路の開発、術科学校以外の観光資源の開発ということで、これからの期待がもてる。集客力をアップするような形での活動を今後も加えていくということにしていく。他に何か意見はないか。
委員	もう 1 点、サイクル&シップライドの件で、サイクリングマップの完成後の配布先が広島市内に限定されているが、例えばサイクリングす

第1回江田島市公共交通協議会 (H22.5.27)

	<p>る方は長距離を走られるということで、もう少し広範囲に配布することを検討してはどうか。</p>
事務局	<p>例えばということで案を示した。今後もう少し具体的に考えていく。</p>
議長	<p>できれば広島県内全域の公民館とか、自転車屋さんだけでなく、幅広くやってもらえばと思う。印刷枚数はどれくらいか。</p>
事務局	<p>予定では1万枚。</p>
委員	<p>是非サイクリング協会とか、実際にサイクリングする団体と話をしてほしい。自転車に乗る人が知りたい情報などが、こちらが考えるのと全然違っては意味がない。そういった団体にマップづくりに協力してもらえば良いのではないか。</p>
会長	<p>昨日 NHK で取り上げていたが、観光協会事務局長がサイクリストであり、自転車での観光振興を考えられている。今の意見を大切にして、作成していきたい。</p>
議長	<p>集客力アップの方法として、特にサイクリングについては新しく需要の伸びるようなものであり、積極的に配布の方法を考えてもらいたい。マップづくりでも、これまでは男性の視点で作ることが多く、女性からすると非常に使いにくいとよく言われる。女性の視点でマップを作るということも大切。是非サイクリストには声をかけていただきたい。使い易い、見易いマップがたくさんできることを希望する。事業計画については、承認されたということで了承いただきたい。</p>
7 その他	
議長	<p>事業計画、その他何かあれば伺う。</p>
委員	<p>今年度協議会の開催予定がわかれば。次回の開催日程はいつになるか。</p>
事務局	<p>昨年度7回開催しており、今年度も7回分の予算を確保したところ。昨年度は毎月集まってもらい厳しいスケジュールであったが、今年度はそこまでにはならないと考えている。だいたい1か月半～2か月に1回くらいか。 次回に関しては、クレアライン無料化の状況や秋月航路の問題もあるので、早い時期に相談させてもらいたい。6月議会定例会(6月下旬開催予定)の後ということで、7月あたまくらいになるうか。</p>
議長	<p>7月上旬が妥当な線のようなので、その辺りを次回の協議会の日程ということで、了解いただきたい。</p>
委員	<p>会場と時間がその都度変わっている。一本化できればしてもらいたい。</p>
議長	<p>今回時間が14時半と中途半端になったのは、船ダイヤとの関係で決まった。できれば13時半が妥当な線。場所は島全体でぐるぐる回ればと思うが、事務局の方はどう思うか。</p>

第1回江田島市公共交通協議会 (H22.5.27)

事務局	会場については、皆が使うので取りにくい現状がある。使えるとすれば、市役所・大柿分庁舎・農村環境改善センターなど。今回は市役所・改善センターは空いていなかった。皆さんの席や傍聴席の確保を考えると、広い会場が必要で、会場確保が難しいことを理解いただきたい。
議長	時間は13時半くらいでよいか。
事務局	皆さんの都合を聞く中で、この時間というのがあるので、できるだけ午後で、というレベルでお願いしたい。
議長	皆さんが出席しやすいように、お願いしたい。
委員	業務委託の報告書は閲覧することができるか。
事務局	もちろんできる。事務局に申し出ればいつでも見られる。
議長	書いてあることは見れば良いが、書いていないことで調査に加えてほしいということがあれば、是非聞かせてもらいたい。年度の押し迫った頃でなく、早い時期なら、調査しやすいのではないかと思う。次回の協議会では、そういうことも考えてもらえばありがたい。
委員	計画書は今日のメンバー全員に配付しているのか。
事務局	冊子の形は委員全員に配付している。他の方で要望があればカラーコピーしたものを配付している。
委員	6月下旬からのクリアライン無料化実験は心配している。江田島町以外の航路も影響があるだろうが、調査を誰がやるか決まっていない。国交省がやる無料化実験だから、国交省だと思うのだが、運輸局なのかどうなのか。県も関心をもっている。無料化前の状況と、無料化になってからどうなったかがわからなければ、実験とはいえないのだが、どこがどういう調査をするかが聞こえてこない。何か情報があれば。
委員	運輸局の方では、瀬戸内海汽船・ファーストビーチの方に、無料化の前後で報告を挙げてもらいたいとお願いしている。一部の航路については調査していくが、他の航路についても検討していく。
議長	調査は全部やっておいた方がよろしいと思うが、いかがか。
委員	実績は日々の数字ですぐわかる。調査というからには、今利用されている方に対して、OD調査やアンケートなど、そういうことをやってもらえれば。業者も人任せにするわけにいかないの自分たちでやろうとしているが、公にはそういうOD調査・意識調査とか、どう考えているか。
委員	実績調査だけお願いしているので、利用者アンケートは想定していない。帰って検討させてもらいたい。
議長	県の方がそういう予定はあるか。

委員	委員の話に沿うような調査は予定していない。
委員	<p>クレアライン・第2音戸大橋の2つの状況が、江田島市を取り巻く海運業・旅客船業においては、マイナスに動くのではないかとということが想定される。秋月航路が想定外の事態となったが、こういう現象はこれからも逐次出てくる可能性がある。</p> <p>早いうちの手当てとして、今6社ある汽船会社を1社に統一できないかということが、市議会の委員会で話題になっている。秋月～呉航路の問題にしても、汽船会社が複数あるから市も対応に苦慮しているわけで、これが全市で汽船会社1社なら、小用～呉航路の船を何便か秋月にまわせれば簡単に解決する問題。やはり将来的には汽船会社の合併・一本化が課題になる。その辺りも真剣に検討してもらいたい。</p>
議長	この協議会でも議論されているが、確たる意見は出ていない。少なくとも利用者の便宜を図ったようなアンケート調査があると、ありがたいと思う。またそういうことが必要であれば、委員会でも検討してもらいたい。
委員	この計画は3か年。委員の話は皆が重々感じていることだが、協議会の性格上、年度の縛りがある。事務局がはっきり説明してもらわないと、このことが公表される。再確認の意味で、事務局に説明を求める。
事務局	<p>計画書の19ページ、海上交通について申し上げると、方向性のところは短期・中期・長期という形で記載している。今回の計画事業は3年間ということで、短期のところに挙げている。更に計画期間として、5か年の中期、その先は長期という書き方で計画書にあげている。</p> <p>再編やクレアラインなど対応検討を含め、東側航路の問題や運航資源の共有化、市全体の将来像も協議会で議論するというのを、短期のところから既に書いている。このことは中期期間でも継続的に話し合いを実施していく。実際第2音戸大橋が開通すれば、その対応を中期で考える。長期については、陸を含めた全体の「持続可能な公共交通の確立」を目指している。協議会・分科会の中で、細かい計画事業だけでなく、大きな話も議論してもらえればと思う。</p>
委員	<p>究極の目的は、江田島と周辺の市町を結ぶ便が、これだけの本数・ダイヤがあれば良いなというのを、持続可能性のあるやり方で出来るというのがベストだと思う。そのために、一つの母体でやるというのも、やりやすくなると思うが、来年以降、公共交通に対する考え方・維持の仕方が大きく変わる可能性がある。</p> <p>交通基本法が来年の国会に提出されようとしている。これにより国が交通基本計画を立てて、各都道府県が交通基本計画をまた立てる。その中で、どういう航路・バス路線・鉄道が必要で、それを維持するための計画を作成し、それに対して国から十把一絡げでお金が降りてく</p>

	<p>る。今までは過疎バスだとか離島航路用だとか、分かれて降りてきたのが、まとめて降りてくる。それを各県で調整して、どこにどれだけ配分するかを決めなさいという仕組みになるのではないかと聞いている。</p> <p>その時に、江田島市としては、どこにどういう交通機関が必要で、それを維持するためにどれだけお金がいるのか、というビジョンを持たなければならない。それに対して県が作る全体の協議会というのが、たぶんできると思うのだが、各地域にある協議会とのバランスを取りながら県は動いていくと思う。その流れの中で、江田島の交通はどうあるべきなのか、それを支える財源がどう出てくるのか、そういうことを鑑みながら、今のような母体をなるべく集約して、それを受けやすくするということもあるし、うまくいけば個々の母体のままでも、その仕組みを使いながら、できる可能性があるのかもしれない。</p> <p>今後公共交通機関のあり方と、それを支える仕組みが大きく変わりそうなので、その様子を見ながらベストの協議ができればよいと思う。</p>
<p>議 長</p>	<p>これからもそういった積極的な意見を取り込んでいきたいと思う。他に何かないか。</p> <p>新しい知事も、海の方へ向けた積極的な意見も出ているようだが、どうもあの意見を聞いていると、いわゆるしまなみ海道のみに偏っているという感じがしないこともない。江田島を含めた航路の開発、そしてその集客をアップするという、そういう方向性に向けるように、皆さんの積極的な意見を頂戴したい。</p> <p>今日は第1回ということで、新しく委員になった方もいるので、その紹介も兼ねて開催させてもらった。次回は7月上旬ということで、事務局から案内を差し上げると思うが、是非都合をつけて、ご出席とご意見をお願いしたい。</p>
<p>8 閉 会</p>	